

ゆすはらちょうしんりんくみあい

梼原町森林組合

～持続可能な森林経営で森林との共生をめざす～



斧入れ式の様子



住宅用の部材となる杉の木の切り株

経緯

- 森林から木材などの林産物を生産するとともに、その事業活動により森林や山村地域の持つ多面的機能の発揮や、山村地域における雇用の確保や地域経済に貢献することを目的に、昭和31年に設立された。
- 温室効果ガス削減、森林資源の循環利用による木材の安定供給や雇用創出への期待に応える。

取組内容

- 環境保全の取組を進めている梼原町をモデルに、平成12年10月に団体としては国内で初めて森林認証を取得。
- FSC製品の消費が四万十川清流の自然を守ることのPRIにつながるため、その販売を推進。
- どこの森林から産出したか(原産地)を明らかにし、生産者と消費者がお互い確認することができるシステム(顔の見える家づくり)を提供。

活動の効果

- 自らの家を支える柱や梁となる木を森林から伐りだす【伐採祈願祭】を10年以上前に行った事をきっかけに、現在では関西圏を中心とした都市部から毎年多くの方々が参加するようになった。
- 産地ツアーでは森林から伐りだされた丸太が製材・乾燥・加工され、どのような工程を経て住宅部材になるのかを実際に見ることのできる工場見学や、世界的建築家【隈研吾】氏設計の施設を巡る事もでき大変好評を得ている。

応募団体からのアピール・メッセージ

- この豊かな森林資源を適切な管理のもと「伐って、使って、植えて、育てる」循環利用によって、地域の雇用や産業振興、さらには林業・木材産業の成長化や地域創生に貢献していきます。